

（ すべて手作りの「劇団時空」 ）

「劇団時空」は、平成10年、主宰者の上山好庸さんが、飛鳥京観光協会の役員会で「村民が明日香の魅力を改めて見直し、村民自らが参加することによって、明日香に住み、関わっていく誇りを持ってもらおう」と劇団の旗揚げを呼びかけて結成された。

平成11年から、毎年、古代の明日香で起きた歴史の出来事を題材にした、ロマンあふれる舞台を国営飛鳥歴史公園石舞台地区「あすか風舞台」で公演している。

現在、劇団に関わるスタッフは、出演者や裏方を含めて約30人で、衣装、大道具、舞台背景、美術、照明まで、すべて手作りでやっている。

11年は「タイムトラベル645」（大化の改新）、12年は再演。13年は「炎の女帝」（齐明天皇）。14年は「厩戸皇子」（聖徳太子）。15年は「天翔る朱雀」（壬申の乱）。16年は「壬申の乱」（15年とは内容が異なる）。17年は「南淵請安（遣隋使）」を演じた。



「紅蓮の落日～大津皇子悲話」舞台

18年9月16日に、「紅蓮の落日～大津皇子悲話」が演じられた。

18年の公演は、観客が1,300人と大成功に終わり、団員は充実感を味わっていた。今後も、劇団の活動に注目していきたい。（上田）

【「紅蓮の落日～大津皇子悲話」ストーリー】

文化祭で大津皇子の創作劇を演じようと練習していた高校生の「しずく」と「亮」。練習に行き詰まった「しずく」は甘檜丘へ飛び出した。ところが、そこで飛鳥時代にタイムスリップしてしまう。自分が采女・大名児にすりかわってしまった彼女は「亮」そっくりの大津皇子との逢瀬に酔いしれる。謀反の罪を着せられた皇子を何とか救おうとする「しずく」。しかし、大津は己の運命を受け入れる。「しずく」は大津を救うことが出来なかったが、千数百年の時を経て、大津は私たちが飛鳥時代に誘うように、現代の明日香で生き続けていると、最後は締めくくられた。



「劇団時空」メンバー

これからの主な催し

〔四季の花〕

●10月上旬～11月下旬【ススキ】

曾爾高原（そにこうげん）

9月中旬に穂が始め、11月下旬金色に染まる。昼間は太陽の光を受け、銀色の波となつてうねり、夕暮れには金の波となつて揺れる。

近鉄大阪線名張駅からバス約40分

太良路下車 徒歩約50分

問合せ先 曾爾村むらづくり推進課

TEL：0745-94-2101

●10月～11月【もみじ】

円成寺（えんじょうじ）

奈良市街と柳生の里のほぼ中間にある、柳生街道随一の名刹。平安中期の創建といわれ、境内の庭園は国の名勝に指定されている。

JR・近鉄奈良駅より奈良交通バス柳生方面行き

忍辱山バス停下車 徒歩2分

円成寺 TEL：0742-93-0353